

現地レポート／大塚 奈美（文化科学研究科 比較文化学専攻）

派遣先：ルーマニア、ハンガリー共和国

派遣先機関名：Hagyomanyok Haza（伝統の家）

派遣期間：2008年7月30日～2008年10月28日

2008年10月14日報告分

授業・研究の進捗状況

前回の報告では言及していなかったが、調査地のトランシルヴァニア・カロタセグ地方は、第一次世界大戦後にルーマニアとなった地域であり、現在もハンガリー系の人々が少数民族として暮らしている。調査拠点の村は人口400程であるが、その大多数はハンガリー人である。今回の収集は、まずはハンガリー系の人々から始めた。



トランシルヴァニア・カロタセグ地方での調査

写真の収集に関しては、村によって、教会事務室などへ持ち寄ってもらう、各家庭を回る、など可能な方法は異なる。使用している機材が最新のものではないこともあり、読み込みにかなり時間がかかる。貴重な写真を扱っているため、万一の紛失等の事故を防ぐため、可能な限り所有者のいるその場での作業が望ましいと考えているが、実際には、同時に何人かが集まった場合など、拘束時間が長くなってしまふなどの弊害もある。作業効率を考え、近隣の村で既に信頼関係が築けている相手など、可能な場合は自宅に持ち帰るなどの方法も採用する。

9月半ばに1週間弱ハンガリーのブダペストに滞在した。受け入れ機関やその他の関係機関を訪問し、協力者も交えて中間報告を行い、成果を共有した。受け入れ機関においては、デジタルアーカイブ化にあたってのより具体的な助言を得ることができた。また、ブダペスト滞在中には、派遣期間前半に撮影した写真の現像を行った。

生活関連状況

9月に入って雨が続いて気温が急に下がり、朝晩は暖房を使用し始めた。村での暖房は、薪を用いたストーブ様のもので、数時間おきに薪を足す必要がある。秋冬は洗濯物を外に干してもいつまでたっても乾かないが、室内に干すとちょうど湿度を補いつつ乾いてくれる。薪となる木は丸太の状態で購入し、それを適当な長さに切って、更に、適当な太さに割る。薪を割るのは慣れない者にとっては特に重労働で、報告者もやってみたことはあるが、簡単には習得できない。火を

点けるのも慣れないと難しいが、こちらは少し練習すれば現地の人並みとはいかないまでも、なんとかなる。トランシルヴァニアの秋は短い。主要な穀物であるじゃがいも・とうもろこし・豆の収穫が最盛期を過ぎ、ぶどうが熟してきた。ぶどう収穫祭の季節でもある。間もなく、長い冬がやってくる。



トランシルヴァニアのぶどう

その他報告すべき事項

前回報告のとおり、帰国予定の便が欠航となったが、交渉の結果、同日発の別経由で調整が付き、再予約ができた。よって、到着時刻が多少変更になったものの、従来通り 27 日ブダペスト発・28 日中部国際空港到着予定で席が確保できた。

2008 年 9 月 9 日報告分

授業・研究の進捗状況

今回の海外派遣では、ハンガリー共和国の研究・教育・普及機関である Hagymanyok Haza（伝統の家）との連携の下、主にルーマニア・トランシルヴァニアのカロタセグ地方において古い写真を収集する国際共同研究プロジェクトの遂行と、博士論文に関する調査を目的としている。

到着後これまでに、ルーマニア・カロタセグ地方の各教会と連絡を取り、収集に関する協力を依頼。いくつかの村に関しては実際に赴いて予備調査を行い、調査協力者となる住民に集まってもらう日時や方法を調整するとともに、現在の様子について写真・VTR の撮影を行った。いくつかの村では、各家庭において保管されている写真の実際の収集を開始した。その他、カロタセグ地方における民俗舞踊や民俗文化に関連するイベントなどに参加し、撮影を行った。



マジアルヴァルコー村の風景

生活関連状況

ルーマニアのトランシルヴァニア地方は全般的に日本より気温が低く、クーラーはないが、夏も比較的過ごしやすい。到着後、8月半ばの約1週間を除いては夜かなり気温が下がり、8月下旬からは暖房も恋しいほどの冷え込みである。日中は気温も上がり、1年の中でも最も過ごしやすい時期であるが、日中と朝晩の気温差が大きく、体調を崩しやすいので注意が必要である。

現在の滞在先は都市から約30km離れた農村である。（村において）一般的な食料品や日用品は村内の商店で手に入れることができるが、品数が限られており、また、生の肉は家畜の牛や豚を屠殺したときには新鮮なものが手に入るが、普段店には冷凍の挽肉や冷凍の鶏肉しかないし、魚は缶詰しかない。1~2週間に一度は列車で街まで出て食料品などの買出しをする必要があるが、列車の本数も限られており、街への買出しで半日はかかる。今の時期は、新鮮な野菜や果物が金銭の支出なしに手に入りやすいという点では村での生活は便利である。

村には電話線が配備されておらず、インターネットは携帯電話経由のみが可能で、料金が高い上に、電波が不安定である。また、不意の停電や給水制限(?) もしばしばあり、物事が予定通りに進まないことも多いが、電気や水道があるのはありがたいことである。

2歳の子どもを伴っての調査であるが、今のところ気候も比較的良好で、少しずつ独りでも外で遊べるようになってきたので、以前よりは自分の時間が取れるようになってきた。しかし、完全に独りにするには危険も多いため、当分は時間のやりくり工夫が必要である。

農村地帯においては、特に、機材を持つての移動では車がないと困難なことが多いが、ガソリン代及び運転手の人件費の出費は少なくなく、希望通りに調査を進めようと思うと、経済的にはかなり厳しい。

移動経費と時間の節約のため、近隣の村へは自転車を借りて行くこともあるが、身体に合う、電灯付の自転車はなかなか見つからない。荷物をあまり運べないのが難点。



その他報告すべき事項

往路出発日がちょうど経由地であるドイツのストライキと重なり、出発便が1時間半以上遅れた上に、接続便は運航自体も危ぶまれたが、接続便も遅れて出発し、予定より1時間ほど遅れて無事宿泊地に到着した。